



JAPAN MONKEY CENTRE

FAX COVER LETTER

公益財団法人

日本モンキーセンター

江藤彩子・赤見理恵

送信先 報道各位

送信枚数 本紙を含めて 5枚

送信日 2015年 12月 14日

冬の風物詩「たき火にあたるサル」

今年も 12月22日(冬至)より開催します

年の瀬が近づき、みなさまお忙しく過ごされていることと存じます。

さて、今年も冬至より、冬の風物詩「たき火にあたるサル」を開催いたします。伊勢湾台風の年（1959年）から半世紀以上の伝統をもつ風物詩（由来は別紙参照）で、火を全く恐れずに、大きなたき火で暖をとるサルたちの姿が見られます。

また14:00からの「ほかほかおイモタイム」では、たき火で焼いた焼イモを、まるで人間がするようなしぐさでほくほくと美味しそうにほおぼるサルたちの姿は、見ているだけでも心癒されます。サルたちが食べているのと同じおイモを蒸したものを、お客様にご試食いただける日もあります（限定13日間）。

おりしも来年は「申年」です。申年を迎えようとする年末に、冬の風物詩「たき火にあたるサル」の話題を多くの方にお届けしたく、ご案内いたします。

冬の風物詩「たき火にあたるサル」概要

■日程 2015年12月22日(火)冬至 ~2016年2月28日(日)の土日祝

※12月22、23日、および12月31日~1月11日は毎日開催

※雨天決行、荒天時中止

■場所 日本モンキーセンター内 モンキーバレイ

【たき火にあたるサル】

火をこわがるはずのサルたちが、たき火を囲んでポカポカ！？

伊勢湾台風の年から56年続く、冬の風物詩です。

時間 : 11:30~14:00

【ほかほかおイモタイム】

飼育員のガイドのあと、たき火で焼いたおイモをサルたちがほおぼります。

アツアツのおイモを美味しそうにほおぼる様子をご覧ください。

時間 : 14:00~

【日程限定！おイモの試食】

サルたちがおイモを食べ終えたあと、お客様にも、サルが食べているのと同じおイモ（蒸したもの）をご試食いただけます。（数量限定）

日程 : 12月22、23、26、27日、12月31日~1月5日、1月9~11日
（限定13日）

時間 : 14:00過ぎ（サルが焼イモを食べ終えた頃から）



サルたちは本当にすぐ近くまで、炎に近づきます。

ためし焼き（取材も可能です）

冬至に先立ち、「おきづくり」と新人スタッフの研修のために、

12月20日(日)に「ためし焼き」をおこないます。

本番と同様にモンキーバレイ内で火をたき、焼イモもおこないますので、

報道関係の皆さまにも取材をしていただけます。

■日程 2015年12月20日(日)

たき火：11:30～14:00

ほかほかおイモタイム：14:00～

また、来年は「申年」ということで、「お正月」や「申年」に関連したイベントを予定しております。詳細は追ってお知らせいたしますが、例年開催している「奇跡のみかん」や「サルみくじ」に加え、以下のようなイベントを予定しています。

■夜猿神社 七福猿と三賢人巡り

サル類の中で最も夫婦仲がよいと言われるヨザルをはじめ、それぞれにご利益がありそうな7種のサル(七福猿)と3種の類人猿(三賢人)を巡っていただくイベントです。

これで申年の運勢はバッチリ!?

日程：2016/1/1(金・元旦)～2016/2/29(月) ※開園時間中、いつでもご参加いただけます。

■サルにお年玉 ～一頭一頭に小さな幸せ～

お正月は、全ての動物たちに小さな幸せを届けたい! 元旦から1/11(月・祝)までの11日間で、約950頭の全てに、飼育員が工夫したお年玉を届けます。

日時：2016/1/1(金・元旦)～2016/1/11(月・祝) 13:30～、その他随時

お問い合わせ先

本件に関するお問い合わせは以下へお願いいたします。

〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林26 公益財団法人日本モンキーセンター

TEL：0568-61-2327 FAX：0568-62-6823 メール：info@j-monkey.jp

担当：学術部 高野、赤見、新宅、綿貫、早川、江藤

資料 1：冬の風物詩「たき火にあたるサル」の由来

1959年(昭和34年)の伊勢湾台風で出た倒木や家屋の残骸や、木曽川河岸に流れ着いた流木を、処分を兼ねて旧犬山野猿公苑(開苑期間:1957~1997)で職員が暖をとるためたき火をしたところ、少しずつサルが集まってきたことが始まりです。伊勢湾台風が産んだ冬の風物詩として、今年で56年を迎えます。その後、「冬至」より翌年の2月末日(暖冬などにより変更あり)まで毎年続けております。また、余禄としてたき火でサツマイモを焼き、サルたちに寒い冬の午後の一時を幸福に浸ってもらっています。おきで2時間以上かけて焼かれる「焼イモ」の味は格別ようです。

たき火にあたるのは、世界遺産の島、屋久島にのみ生息するサル「ヤクニホンザル」で、およそ150頭がモンキーバレイで暮らしています(資料参照)。ニホンザルの亜種で、体格が2回りほど小さく全体にこじんまりとしています。好奇心が強く、石打ちや雪団子作りなど次々に新しいことを編み出します。たき火のあとの焼イモを、池の水で冷やす行動も見られます。一昨年、第一位オスの交代があり、タイマツ(1999年4月27日生まれ)が第16代目の第一位オスとなりました。

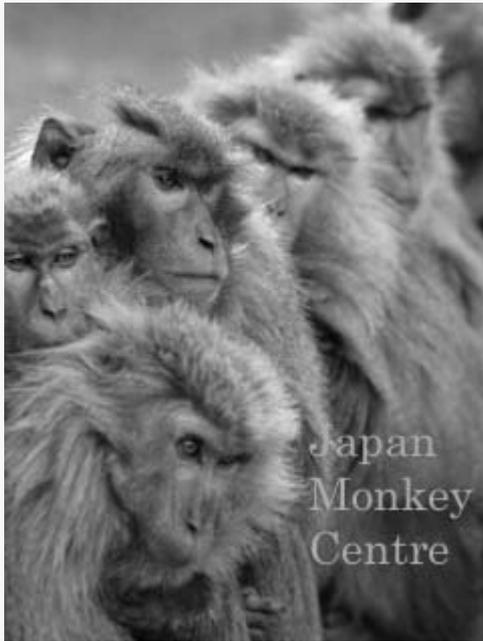
日本モンキーセンターでは1957年(昭和32年)以来、8世代にわたってヤクニホンザルを犬山で飼育し、様々な研究者の研究対象として、また霊長類を学んでいただくための生きた教材として、多くの方に愛されてきました。たき火にあたる行為は自然に発生したもので、他所ではニホンザルを用いて人為的に試みられていますが、8世代にわたって受け継がれ、0歳から母親とともにたき火にあたっているモンキーセンターのサルたちと同じようにはいかないようです。



犬山野猿公苑で実施していた頃の「たき火にあたるサル」

資料 2 : ヤクニホンザルについて

ヤクニホンザル



英名	Japanese Yaku-Macaque
学名	<i>Macaca fuscata yakui</i>
CITES	II
IUCN	LC

分布



屋久島

会える場所

モンキーバレイ

- 世界遺産の島、屋久島に生息するニホンザルの亜種。
- 本土のニホンザルにくらべると、やや小型で体毛が長く、荒い。